

『PLAN 75』

2022年／日本／早川千絵監督作品

しあわせな老後ってなんだろう？

会員 中村 千之 (48期)



『PLAN 75』
Blu-ray & DVD 発売中
Blu-ray : 5,500 円 (税込)
DVD : 4,400 円 (税込)
発売元 : 株式会社ハビネット
ファントム・スタジオ
販売元 : 株式会社ハビネット・
メディアマーケティング
© 2022 『PLAN 75』 製作委
員会 / Urban Factory / Fusee

75歳になると、自らの死を選択できる制度がある近未来の日本を舞台とした映画である。まるで近未来の姥捨て山のように、しあわせな老後ってなんだろう？と考えさせられた。主人公は、ホテルの客室清掃員として働く一人暮らしの78歳女性であり、解雇、友人の孤独死などを経てこの制度の申請を考える。人口爆発、環境破壊、食糧危機を題材としたSF映画を子どもの頃見たが、この映画は題名である特殊な制度を国会が可決したほかは今より高齢化が進んだ日本が舞台であり、現代と特に変わった様子はない。制度通称を「75歳選択制度」などと呼ぶ代わりに「プラン75」というキャッチーな軽い呼称にしているところに為政者のずる賢さを感じさせ、よりリアル感を高めている。

プラン75の申込み受付を担当する市役所職員は、爽やかな若い男性である。市役所に制度の話聞きに来た人には、にこやかに「支給される支度金は何に使ってもいいんです」と何の疑いもなく制度の素晴らしさを説明する。プラン75に申し込みを行うと、「その日」がくるまでの間、相談相手として電話オペレーターが割り振られる。主人公担当の電話オペレーターは落ち着いた話しぶりの若い女性である。電話オペレーターは、「プラン75は、いつでも取りやめることができます」と説明し、主人公がつい長話になると、「電話は一回15分までです」と言って切り上げてしまう。電話オペレーターがキャンセルの自由を説明しながらも、「当日は家の鍵を閉めな

いでセンターに来てください」と説明する場面では、その意味するところを想像して、ちょっと怖い感じもした。もし申請者から、「なぜ鍵をかけてはダメなのか？」と質問された場合のための回答用マニュアルが事前に用意されていると思われるが、どのように回答するのかそのセリフを想像しながらこの場面を見ていた。

ある日、市役所職員はプラン75の申請にきた親戚のおじさんと遭遇し、そこではじめてプラン75に疑問を感じ始める。「君、疑問感じるの遅くない？いままで他人ごとすぎだろ」と心の中で突っ込みを入れながら映画を見ていたが、様々な感情が自分の心を揺さぶってくる。おじさんは、職員が子どものころと一緒に遊んだり、家族ぐるみで行き来していた仲の良いおじさんだったのかもしれない。それまではこの職員があまりに爽やかに安楽死を勧めていて違和感があったが、いざ身内の問題になると自分ごととして真剣に悩んでしまうところに少し安心した。人と人とのつながりが、人間らしさの大切な要素なのかもしれないと感じるシーンであった。安楽死や尊厳死の制度を採用している国で厳格な要件のもと行われる適法行為を否定しようとは思わないし、人によって考え方は異なると思うが、未来においても、プラン75が導入されることのない、何人も生きることを尊重される社会であってほしいと思う。結末は映画を見ていただくほかないが、見終わった後は、周囲の人を大切に楽しく生きようと思った。